

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

一切

第2号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月3日（木）13:00～15:00、一切漁協
の2階にて事前復興まちづくり計画に向けた地
区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラ
フ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、
地区としての復興の方
向性や、被災後の多様
な住まい方に関する意
見交換を行いました。



【地区としての復興の方向性】

●漁業ができる町として復興したい

- ・今の普通の暮らしにもどしていききたい
- ・できれば地元で暮らしたい
- ・一切でまとまって復興していききたい

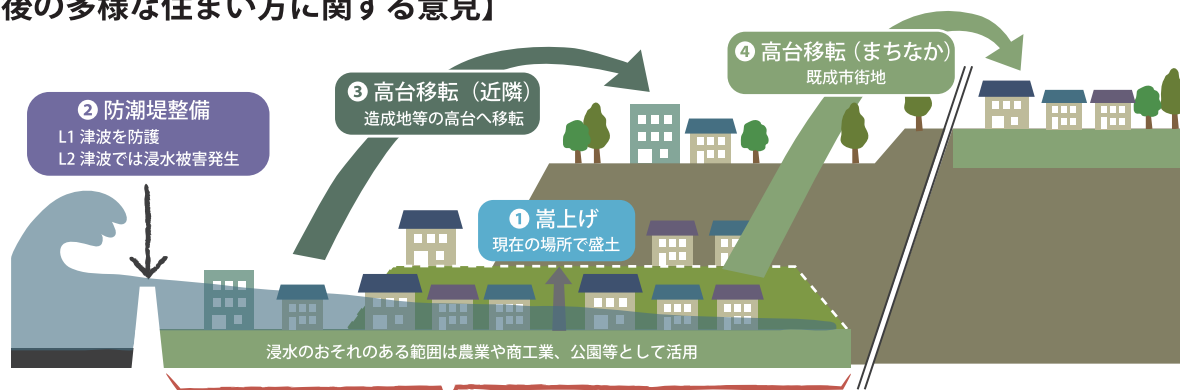
予想される被害

- ・津波の被害が想定され
るのは6世帯
- ・土砂崩れが心配
- ・石垣が崩れる危険
- ・土砂被害は多数。

応急期のこと

- ・仮設トイレが欲しい
(消防屯所に設置して欲
しい)
- ・炊事のできる機能が欲
しい

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



1 嵩上げ

一切で住む方法があれば一番
・地元の人と一緒にいたい

- ・自宅の被害の状況により、住めるようならそのまま住みたい
- ・漁をするならこの地区がいい（現地再建）

2 防潮堤整備

- ・漁師は海が見えなくても良い。（基本サンゴ漁）

3 高台移転（近隣）

- ・小学校にみんなで住めるようにしたい
- ・小学校を壊して、そこへ公営住宅を建てる。

- ・買い物、病院へ行くのが問題

4 高台移転（まちなか）

- ・便利な弘見もあり（高齢の方）
- ・まちに移転するなら弘見＞姫ノ井

- ・災害公営住宅
- ・子どもの家

- ・身を寄せる場所がない人もいる

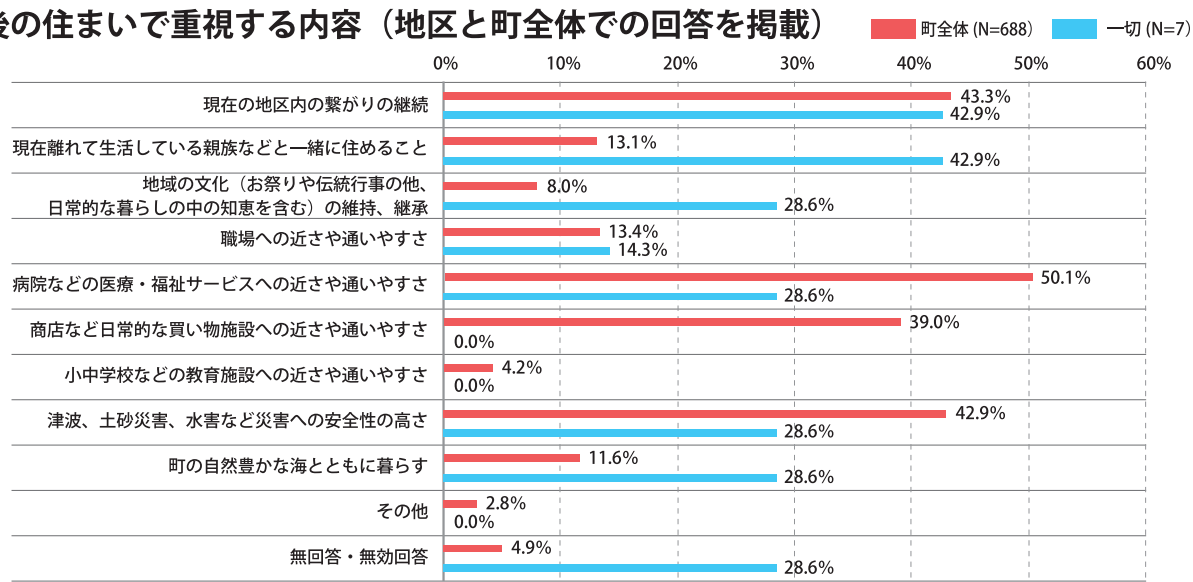
第1希望

- ・移動販売は維持して欲しい

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

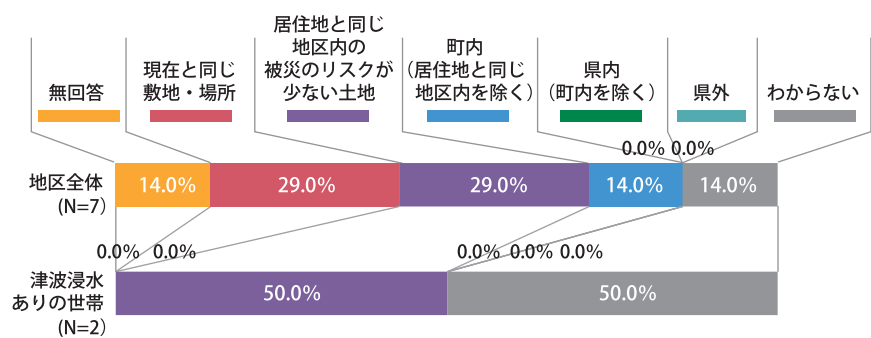
2025 年 8 月 25 日までの 2 週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



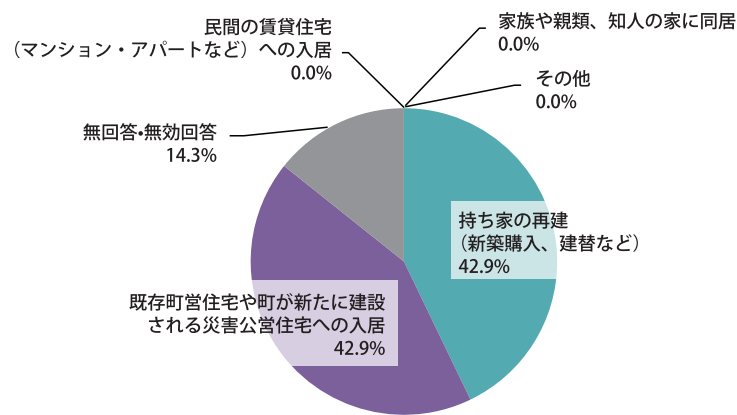
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。一切地区では「現在の地区内の繋がりの継続」と「現在離れて生活している親族などと一緒に住めること」が 42.9% と最も多く、「地域の文化の維持、継承」、「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」、「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」、「町の自然豊かな海とともに暮らす」、「無回答・無効回答」が 28.6% となっている。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所について、一切地区全体では「現在と同じ敷地・場所」、「居住地と同じ地区内の被災リスクが少ない土地」が 29% と最も多かった。津波浸水の予想される世帯では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 50%、「わからない」が 50% となっており、被災後のイメージを持ちづらいと思われる結果となった。

●復興の際の住まいの形態 (N=7)



●復興の際の住まいの形態については、「持ち家の再建」と「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 42.9% と最も多く、次いで「無回答・無効回答」14.3% となっている。その他の項目についてはいずれも 0% となっている。